地域とのコミュニケーション情報発信紙

敬老園便り

第49号
令和7年
10月1日発行

【編集・発行】敬老園本部／〒386-0027 長野県上田市常磐城2256-1 2F　TEL.0268-28-1170（代）



上田大花火大会（職員撮影）

設立 1973年（昭和48年）5月

敬老園の理念

少子高齢化の進展に伴う様々な問題に、地域に根ざした社会福祉法人として三つの理念を掲げ、役職員が一丸となり社会貢献を致します。

- 敬老園は人間の尊厳を大切にし、柔軟な心をもってあらゆる可能性のある質の良い介護を目指します。
- 敬老園は公平公正な施設運営を旨とし、変化する時代を的確にとらえ社会に貢献する健全な経営を目指します。
- 敬老園は心と心の結びつきを基本とし、取り巻く全ての関係を誠意と熱意をもって構築することを目指します。

介護業界の現状

介護保険制度がスタートし、25年が経過しました。非常に厳しい状況の中で事業運営を行っています。消費税率引き上げ分のみ上乗せの介護報酬改定、介護職員処遇改善加算拡充、コロナ等感染症対応にかかる補助金等ありましたが、米などの物価高騰・人材不足・倒産事業者が増加するなど、いくつもの不安要素を抱えております。2040年には65歳以上の高齢者が全人口の約35%（内85歳以上が1,000万人）に達するとみられており、現役世代の急減・生産年齢人口の減少による人手不足や社会保障費の増加が懸念されています（2040年問題）。長野県内におきましても、2040年には約48,000人（第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数についてより）の介護職員数が必要とされておりますが、現状推移の中では約8,000人が不足し、介護難民増加が見込まれています。支え手となる人材の確保は急務ですが、他産業とは給与水準がかけ離れており、人材確保も深刻です。

そのような厳しい状況の中ですが、当法人では「生産性向上委員会」を軸とした業務改善や介護テクノロジー活用などによる職員の負担軽減・職員定着による介護サービスの質の向上を目指し、取り組んでおります。

敬老園の取り組み
～法人の生産性向上委員会の進捗状況～

生産性向上委員会を立ち上げ約８ヶ月が経過した現在において、「ムリ」「ムダ」「ムラ」に焦点をあてて事業所の課題抽出を進めています。 令和7年8月現在

介護現場の３Mとは
「ムリ」「ムダ」「ムラ」

ムリ

職員の心身への過度な負担（例：経験の浅いスタッフが一人夜勤等）

ムダ

省略化できる業務（例：昔から実施しているが本来は必要ない業務）

ムラ

「ムリ」と「ムダ」が混在している状態（例：職員毎に手順が異なり、成果に差が出る

「ムリ」「ムダ」「ムラ」を排除することで

▼

職員の心身の安全、業務の効率化、
職員に依らない
質の高いサービス提供が見込める。

課題抽出（抜粋）

職場環境の整備

▶個人ファイルを探すのに時間がかかる

▶整理すべき書類が溜まっている

「ムダ」と捉えられる！

整備しておくことで、書類を探す時間が削減。

１回１回は短い時間でも、
長期的に見れば大幅な削減に

変化する時代を的確にとらえて

業務改善・効率化による
質の高いサービス

外国人材含め
様々な面からの採用アプローチ

離職防止対策

順次業務改善・効率化を推進し、課題の抽出から課題分析や課題に向けた計画の策定、解決に向けた取り組みを既に始めています。一方で「どのように進めてよいかわからない」「多忙な中でなかなか取り組みへの時間確保が難しい」といった意見も出ており、新しいことを始める難しさや手探りの中で進めていく大変さもありますが、着実に改善・効率化を進めています。

業務改善・効率化と並行して人材確保は必須デジタル人材の育成も重要

生産性向上では、既に直面している人材不足の状況においても、質の良いサービスが提供できることを目標としています。しかし、今以上に人材不足が顕著となった場合、業務改善や効率化だけでは、事業運営がままならない状況は目に見えており、継続して人材確保は必須となっています。また、ICT（情報通信技術）やロボット技術、AIなどを活用することで業務効率化や労働力不足の解消が見込まれておりますが、それらを使用するのは人であることから、デジタル人材の育成や確保等、幅広い分野での採用も重要なポイントです。その為、法人では「様々な面からの採用アプローチと離職防止対策、外国人材の安定的確保」を重大課題として捉え、取り組んでおります。

日本の少子高齢化は、類を見ない早さで進んでいます。そのため社会的に「人材不足」「業務効率化」「生産性向上」がキーワードとなっており、取り組みは加速していかなければなりません。今後も今できることを全力で取り組んで参ります。

かるいざわ敬老園

しなの追分馬子唄道中に役者として参加！



信濃追分で発祥し、全国各地に伝えられたという追分節・馬子唄を多くの方に親しんでもらいたいという想いで、軽井沢西地区のお祭りとして永年楽しまれてきた「しなの追分馬子唄道中」。今回で40回目の開催となりました。中山道六十九次のうち江戸から数えて20番目の宿場となる追分宿を、江戸時代の衣装に身を包み練り歩く姿は圧巻で、朝早くから地域住民の方や学校関係者・保護者の皆様が朝から準備に勤しみ、お祭りを盛り上げます。平成14年に開設したかるいざわ敬老園（北佐久郡軽井沢町大字追分）では、地域の皆様との交流として毎年お祭りに参加させていただいています。



当日は地域の皆様の計らいで敬老園用観覧スペースを確保いただき、入所者3名が参加。お祭りの雰囲気を味わっていただくことができました。伝統あるお祭りの最中、若かりし頃の懐かしさに想いを馳せ、楽しんでいただけたと思います。



職員は芸人（役者）としてお祭りに参加。口上に合わせて、南京玉すだれを披露しました。参加した職員からは「失敗もしましたが、お祭りに来た方々に楽しんでいただけて良かった」との声が聞かれました。

佐久市の
信州日本語
研修センターで
1か月間学習



敬老園
Photo News





7月7日法人本部（上田市常磐城）にて11名のインドネシア人特定技能職員の辞令交付式を執り行いました。斎藤剛志理事長は、「不安なことが多いと思うが、1日でも早く慣れるように職員が全力でサポートしていきます。一緒に頑張っていきましょう」と激励しました。

11名は6月に入国以降、佐久市にある信州日本語研修センターにて日本文化や言語を1か月間学び、7月8日に各事業所へ配属しました。法人ではこれまでに外国人108名を受け入れ、介護福祉士国家試験合格者を30名輩出しています。現在85名の外国人職員が在籍しており、法人職員の約7%を占めています。人材不足と言われる中、法人運営になくてはならない存在となっております。

敬老園の国際事業部は外国人材受け入れに際し、住まい（バス・トイレ・キッチン等整備）を始め、食事・宗教・日本語教師等、生活面においても支援。また「行政や銀行等各種手続きに関する支援」「感染症対策や受診の同行」「介護福祉士国家試験合格に向けた試験対策講座」「困りごとへの相談窓口」等、多岐に渡りサポートを行っております。少しでも早く日本に慣れるようにと、前述の通り配属前に研修センターにて日本文化や言語を学ぶことは、長年の受け入れ経験から実施している取り組みとなっています。

News その2

新しい仲間
特定技能職員11名受け入れ



敬老園
Photo News



北信越地区介護技術コンテストに高校生参加！

全国福祉高等学校長会主催

8月12日（火）、北信越地区介護技術コンテストが、昨年に引き続き今年も法人本部の5階講堂で開催されました。当日は教職員、生徒、関係者約120名の方々がコンテストに集まりました。前日から会場準備やリハーサル、当日は駐車場の案内やコンテストの司会進行等、競技参加者だけでなく、全員が力を尽くしている姿が見られました。若さ溢れ、真っ直ぐ一生懸命な様子から身の引き締まる思いでした。閉会式の中では、お時間を頂戴し高校生達に法人の取り組みを紹介しました。



（法人の人事課職員）

敬老園の取り組み紹介

地域を支えることを使命とし設立50年以上の確かな実績

その1

地域社会の幅広い貢献に繋がるよう、役職員ひとりひとりが地域を支える

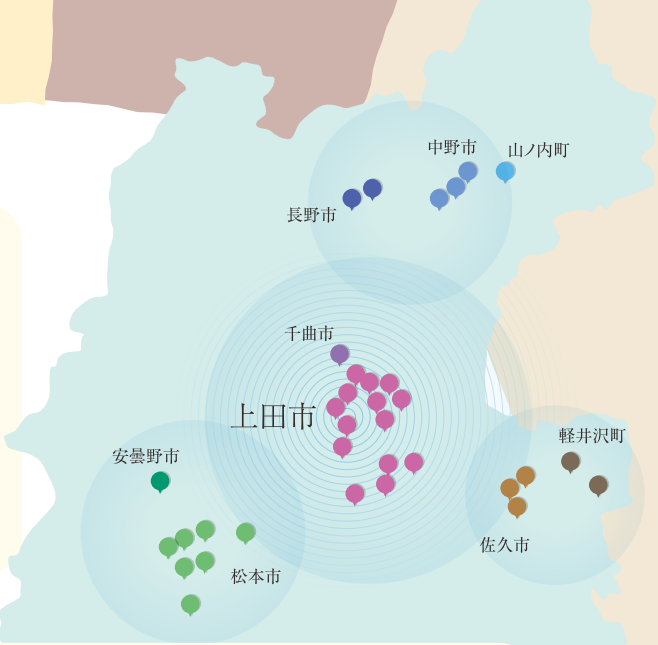
乳幼児期から老年期までのライフステージ（生活段階）における7項目の事業を展開



その2

敬老園の広がるネットワーク

９つの地域（長野、松本、上田、中野、佐久、千曲、安曇野、軽井沢、山ノ内）における事業展開。年間延べ利用人数約130万人の皆様に、約1,200名の職員がサービスをご提供しています。敬老園は長野県内の地域福祉を幅広く支えています。



その3

社会ニーズにあわせた新規保育事業

法人の屋台骨である介護事業に加え、児童福祉にも力を入れております。法人では、令和6年4月1日の改正児童福祉法施行を受け、「うえだ里親支援センター」を開設しました。家族と暮らすことのできない子どもたちが、家庭と同じ養育環境で生活できるように、養育里親を対象とした普及活動・研修・子どもを迎えいれてからの支援など養育家庭に寄り添いながら包括的なサポートを行っております。また、同日（令和6年4月1日）にうえだみなみ乳児院常磐城事務所を開所し、「妊産婦等生活援助事業」を県からの委託事業として開始しております。

◎「うえだ里親支援センター」の詳しい情報はこちら
https://uedasatooya.keiroen.or.jp/

◎「にんしんSOSながの」の詳しい情報はこちら
https://nyujiin.keiroen.or.jp/ninsin-sos/

その4

充実した研修体制 KCS（敬老園キャリアシステム）





❶自己啓発研修
介護職員初任者研修のほか、受験対策講座（介護支援専門員・介護福祉士）を実施し、職員の資格取得支援を行っています。

❷職場外研修（職掌別研修）
全職員対象の職員基本研修を各階層に分け、福祉サービス提供に必要な資質を専門性と組織性の２つの側面からとらえ、段階的に学ぶ体制を構築しています。

❸職場内研修
新人職員が末永く法人に勤めることを真に願い、不安の解消や社会性などの習得を目的として実施しています。

❹職場フォロー
働く人の「心理的負荷」に関して、気軽に相談できる窓口。

昨年度からは中長期的なキャリア育成と人材育成を目的として中堅職員（3年目職員）を対象とした「若手職員研修」を始動しています。その他、動画学習サービス導入による、職員が学び易い環境構築など、「学びやすいこと」や「相談しやすい環境」は敬老園の大きな魅力です。

五感で味わう敬老園の食事 ～栄養部から～ その37

夏祭りの季節！ お祭りといえばやっぱり屋台！

しものごう敬老園

上田市下之郷 463-1

開設14年目を迎えたしものごう敬老園で、1年のうち最も大きいイベントの一つ、夏祭りの「納涼祭」。今年も職員総出で行いました。焼き鳥やつくねを焼いている炭火の香りがする中で、射的や輪投げ、水ヨーヨー釣りなどを楽しむ入居者様の顔には、いつにも増して笑顔が見られました。栄養課が中心となって企画・準備した屋台メニューを昼食とおやつで提供しました。お祭りに来ている気分で満足そうに召し上がっている姿を見ると、「楽しく」食事をするということの大切さを、入居者様から教えていただいている気持ちになります。イベントの時だけでなく、季節を感じたり、嗜好に沿った献立を定期的にご提供しています。今後も入居者様の「満足度」を大切に、日々の食事作りをしていきます。

しものごう敬老園 栄養課　山岸 進









屋台メニュー

- やきそば
- 焼き鳥
- つくね焼き
- お好み焼き
- かき氷
- わたあめ
- きゅうりの粕もみ
- 杏仁豆腐

編集後記

～変化しない髪型を的確にとらえられて～
よく行く美容院で、今日の髪型はどうしますか?いつもの感じでよろしいですか?と声をかけられました。「はい。いつもと同じでお願いします」と返答。常連になった証といった嬉しさもありつつ、いつも同じという気恥ずかしさも感じました。(古田)